

# 病棟・外来

ナースポケットブックmini

| 監修 |

小西敏郎

東京医療保健大学副学長・医療栄養学科長・教授

**Gakken**

<監修者略歴>

小西 敏郎(こにし としろう) 医学博士

1972年 東京大学医学部卒業

1973年 がん研究会附属病院外科レジデント

1975年 東京大学第二外科

1981年 都立駒込病院外科

1985年 東京大学第二外科講師

1996年 東京大学第二外科助教授

同年 公立昭和病院外科主任医長

1998年 NTT 関東病院外科部長

2002年 同 副院長兼任

2013年 東京医療保健大学副学長・医療栄養学科長

現在に至る

## はじめに

外来ナースは、医師の指示のもと「血圧・脈拍測定（バイタルサイン測定）」「採血」「がん薬物療法」など診療の補助を行います。幅広い知識を持ち、個々の患者さんの状況を的確に判断して診療へとつなげていくのが役割です。また必要に応じて「受診受付」「患者・家族のケア」も行います。

病棟ナースは、入院中の患者に対してケアを中心にを行います。患者さんの「手術」や「検査」「がん薬物療法」「放射線治療」「外来診察」などのスケジュールをいかに効率よくスピーディーに、かつ確実に業務をこなせるかがポイントとなります。さらに、病棟では退院指導や継続看護の内容を含んだ退院サマリーを作成します。

本書は、病棟や外来で必要な時にすぐ取り出せて、その場で数値、手順、アセスメントのポイントが一目で確認できる、医療現場で必須の知識を集約したポケットブックです。

医療現場で学ぶべきこと、実践すべきこと、そして必須の知識を、平易な文章と多くの写真・イラスト、図表などのビジュアルを盛り込み、わかりやすく展開してあります。本書を通じて看護師の皆さんが、知識と技術をさらに向上させて、看護業務を1人で十分にこなせるように利用してください。

2021年12月  
小西敏郎

# CONTENTS

## 第1章 急変時の対応

- ①一次救命処置(BLS)
  - 2 1 心停止アルゴリズム
  - 4 2 胸骨圧迫、気道確保
  - 6 3 器具を用いた気道確保
  - 8 4 体位管理
- ②二次救命処置(ALS)
  - 12 1 心停止アルゴリズム
  - 14 2 声門上器具
  - 15 3 気管挿管の必要物品
  - 16 4 気管チューブのサイズ、気管挿管時の開口
  - 17 5 気管挿管患者の体位確保
  - 18 6 気管挿管前の患者評価
  - 20 7 喉頭展開時の介助
  - 21 8 気管挿管後の位置確認
  - 22 9 呼気CO<sub>2</sub>モニター
  - 24 10 緊急薬剤一覧
  - 25 11 緊急時報告
- ③不整脈(心電図)
  - 26 1 緊急度の高い不整脈と対応
- ④ABCDEアプローチ
  - 28 1 即時評価
- ⑤意識障害
  - 30 1 意識障害の評価
  - 32 2 瞳孔の正常と異常所見
- ⑥ショック
  - 33 1 ショックの5P
  - 34 2 ショックへの対応
- ⑦トリアージ
  - 35 1 トリアージ
  - 36 2 情報収集と病歴聴取

## 第2章 症状別対応

- ①意識障害への対応
  - 38 1 意識障害の評価
- ②胸痛への対応
  - 40 1 胸痛の評価
- ③呼吸困難への対応
  - 42 1 呼吸困難の評価
- ④悪心・嘔吐への対応
  - 44 1 悪心・嘔吐の評価
- ⑤腹痛への対応
  - 46 1 腹痛の評価
- ⑥頭痛への対応
  - 48 1 頭痛の評価

## 第3章 呼吸

- ①肺音と呼吸パターン
  - 52 1 呼吸音の特徴、聴診と呼吸状態のアセスメント
  - 54 2 主な異常呼吸と呼吸パターン
- ②人工呼吸器
  - 55 1 開始基準と観察項目
  - 56 2 アラームの分類と対処法
  - 59 3 主な換気モード
- ③酸素療法
  - 62 1 酸素流量と吸入酸素濃度
- ④動脈血液ガス・酸塩基平衡・パルスオキシメーター
  - 64 1 動脈血液ガス分析の基準値
  - 65 2 酸塩基平衡
  - 66 3 SpO<sub>2</sub>

## 第4章 循環

### ①心音の聴診

- 68 1 心音の分類と聴診
- 70 2 心音の聞こえ方
- 72 3 心雑音のタイミングとパターン
- 74 4 心雑音の強さ

### ②心電図

- 76 1 基本波形
- 77 2 12誘導心電図の電極装着部位
- 78 3 モニター心電図の誘導法

### ③冠状動脈・静脈

- 80 1 冠状動脈・静脈の位置
- 81 2 AHAの冠状動脈区域分類
- 82 3 カテーテル検査

## 第5章 認知機能・鎮静・せん妄

### ①認知機能障害のスクリーニング

- 84 1 MMSE
- 85 2 HDS-R

### ②鎮静レベルの評価

- 86 1 リッチモンド興奮-鎮静スケール (RASS)

### ③せん妄評価

- 87 1 日本版CAM-ICU
- 88 2 ICDS (Intensive Care Delirium Screening Checklist)

## 第6章 感染対策

### ①スタンダードプリコーションと 経路別予防策

- 90 1 スタンダードプリコーションと感染経路別予防策
- 92 2 咳エチケット・サージカルマスクの装着方法
- 93 3 N95マスクの装着方法・使用時の注意
- 94 4 主な防護用具の着用順序

### ②COVID-19対応

- 95 1 COVID-19における感染予防対策

## 第7章 電解質・糖尿病

### ①電解質の働きと異常値, 微量元素の アセスメント

- 98 1 電解質異常
- 100 2 微量元素の作用

### ②糖尿病と合併症

- 101 1 慢性合併症
- 103 2 高血糖昏睡
- 104 3 低血糖

### ③糖尿病治療薬

- 105 1 インスリン製剤
- 106 2 GLP-1 受容体作動薬

## 第8章 栄養・摂食・嚥下障害

### ①栄養評価

- 110 1 客観的栄養評価
- 112 2 身体測定による栄養状態の評価
- 114 3 主観的包括的栄養評価 (SGA)
- 115 4 高齢者用スクリーニングツール (MNA)
- 116 5 低栄養の判定 GLIM基準
- 117 6 基礎代謝量の推算式

### ②栄養療法と経腸栄養剤

- 118 1 栄養療法の選択
- 119 2 経腸栄養チューブ先端留置部位別の投与方法
- 120 3 経腸栄養剤

### ③摂食・嚥下障害

- 121 1 摂食・嚥下障害を疑う観察所見
- 122 2 摂食・嚥下リハビリテーション

## 第9章 痛み

### ①痛みの評価

- 126 1 痛みの評価スケール

## ②デルマトーム

127 1 デルマトーム

## 第10章 ADL

### ①ADL評価

- 130 1 パーセルインデックス
- 132 2 機能的自立度評価表 (FIM)

### ②ADL区分・自立度

- 134 1 ADL 区分と点数の基準
- 135 2 障害高齢者の日常生活自立度判定基準
- 136 3 認知症のある高齢者の自立度判定基準

## 第11章

## 褥瘡・スキンケア

### ①褥瘡ケア

- 140 1 褥瘡の好発部位
- 141 2 褥瘡の深さの分類

### ②スキンケア

- 143 1 スキン-ケアのリスクアセスメント
- 144 2 医療関連機器圧迫創傷 (MDRPU)
- 145 3 IAD
- 146 4 浮腫
- 148 5 瘻孔

### ③熱傷ケア

- 149 1 受傷面積の算定法
- 150 2 熱傷深度別の臨床所見, 症状, 経過・予後, ケア
- 151 3 重症度の判定基準

## 第12章

## 排泄ケア

### ①便

- 154 1 便の性状
- 155 2 ブリストル排便スケール
- 156 3 下痢の病態
- 157 4 便秘の病態

158 5 ストーマ周囲の皮膚障害

### ②尿

- 159 1 尿の性状と色調
- 160 2 尿失禁の分類

## 第13章 処置

### ①注射

162 1 注射法

### ②点滴, 輸液

- 163 1 点滴中の観察のポイント
- 164 1 輸液ポンプ使用中の患者の観察ポイント

### ③シリンジポンプ

165 1 シリンジポンプ使用中の患者の観察ポイント

### ④輸血

166 1 輸血中の患者の観察ポイント

### ⑤カテーテルの管理

167 1 膀胱留置カテーテル, 末梢・中心静脈カテーテル

### ⑥経鼻経管栄養

168 1 注入中・後の観察ポイント

### ⑦ドレーン管理

169 1 脳室ドレーナージ, 胸腔ドレーナージ, 腹腔ドレーナージ

### ⑧穿刺

171 1 胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺

## 第14章 検査

### ①臨床検査基準値

- 174 1 臨床検査基準値
- 96 引用・参考文献①
- 172 引用・参考文献②
- 176 索引

編集担当:黒田周作 編集協力:大内ゆみ  
カバー・本文デザイン:星子卓也  
DTP:(株)グレン  
本文イラスト:青木隆デザイン事務所, 日本グラフィックス

# 急変時の対応

① 一次救命処置 (BLS)

---

② 二次救命処置 (ALS)

---

③ 不整脈 (心電図)

---

④ ABCDE アプローチ

---

⑤ 意識障害

---

⑥ ショック

---

⑦ トリアージ

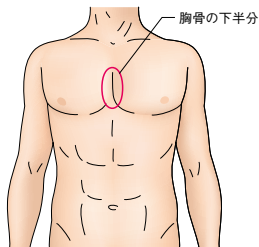
---

# ① 一次救命処置(BLS)

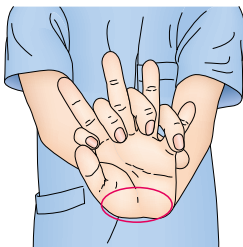
## 2

## 胸骨圧迫，気道確保

### ■ 胸骨圧迫



圧迫位置



#### 胸骨圧迫姿勢

肩が圧迫位置の真上になる姿勢で両肘を伸ばして垂直方向に圧迫。圧迫後もとの位置に戻す。

約5cmの深さで6cmを超えないように、1分間100～120回圧迫する。